施策マネジメントシート
（令和７年度目標達成度評価）

シート１　施策10：生涯学習の推進

施策体系

基本方針	3	教育の健幸	施策名	10	生涯学習の推進

施策統括部	教育部	関係課	無し
施策主管課	生涯学習課		

１　施策の評価指標

	成果指標	単位
A	市民講座登録者数	人
B	「多文化交流」関連講座の開催数	回
C	本の貸出者数	人
D		

２　指標等の推移

成果指標		R4年度実績値	数値区分	６年度	７年度	８年度	９年度	評価	背景として考えられること
A	人	280	目標値	330	360	390	420	○	毎月開催している市民講座において、令和6年度から受講生へ皆勤賞授与を開始し、参加者の意欲を高めることができました。また、SNS等による周知や、県内で認知度が高い著名人による講演を行ったことで、登録者数の増加に繋がりました。
			実績値	399	582				
B	回	6	目標値	12	15	18	20	○	市内での外国人労働者が増加している中、地域における多文化共生は重要であることから、日本語講座の募集を実施しましたが、応募がなく前期8回・後期6回の計14回が中止となりました。今後は、語学だけではなく語学と郷土文化を交えるなど新たな視点での講座の立ち上げが必要と思われます。
			実績値	46	36				
C	人	79,761	目標値	80,000	80,750	81,250	82,000	○	インターネットの普及や娯楽の多様化など、ライフスタイルの変化に伴い、図書館自体の利用（77,797件）は減少傾向にありますが、電子図書（23,290件）の充実や、土日や長期休暇中に集会室を学習スペースとして開放するなど、小中高生の受け入れを強化しました。さらに、推薦図書や特別展示の充実、季節感のあるレイアウトへの刷新など、市民が親しみやすい施設運営を推進し、図書館の利便性向上に努めました。
			実績値	77,487	101,087				
D			目標値						
			実績値						

※【評価】　○；目標達成　△；目標をほぼ達成（－5%）　×；目標を未達成

事務事業数・コスト				６年度	７年度	８年度	９年度
事務事業数			本数	11	11		
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	1,183	0		
		都道府県支出金	千円	0	0		
		地方債	千円	143,300	84,500		
		繰入金	千円	661	0		
		その他	千円	30,887	29,051		
		一般財源	千円	380,630	420,757		
	事業費計		千円	556,661	534,308		

施策マネジメントシート
（令和７年度目標達成度評価）

シート２　施策10：生涯学習の推進

３　施策の現状・住民意見等

①施策の現状（第１期基本計画策定当初）と今後の状況変化

●住民のニーズに即した学習機会を提供しています。
●各施設の老朽化に伴い計画的に改修を進めています。
●施設更新経費や維持管理経費が増加しています。
●地域コミュニティの互助・共助の機能が低下しています。
●学校と地域の連携・協働の重要性が求められています。
●地域での多文化共生を進めることが求められています。
●令和8年2月にオンライン予約システムを導入しました。

②この施策に対して住民（対象者、納税者、関係者）、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？

（令和７年度（令和6年度振り返り）の施策評価における議会意見）
●多文化共生や中高生の居場所づくりなど、様々な視点から生涯学習講座の展開を図ること。
●図書館及び図書のさらなるデジタル化の推進に取り組むこと。
●全世代に対しサブカルチャーに触れ合う機会を充実させること。

（令和７年度（令和6年度振り返り）の施策評価における総合政策審議会意見）
●より多くの市民に参加してもらえるようにイベントや講座の周知方法を工夫すること。
●イベントや講座等の内容の充実を図ること。

４　施策の評価

①施策の振り返り（経営方針の達成度等）

令和７年度経営方針からの振り返りは以下のとおりです。
①【市民の健康や国際化など市民のニーズに合った講座開催に努めます。】については、「生きがい講座」において、市民の体と心のリフレッシュや脳トレなど、高齢者でも無理なく参加できる「健康講座」を実施しました。また、多文化共生につながる「台湾文化教室」「台湾華語教室」「コミュニケーション英会話」など、他国の言語や文化を学ぶ講座を実施しました。

②【オンライン申請の導入など利用しやすい社会教育施設の環境整備に努めます。】については、社会教育施設のオンライン予約システムを令和8年2月に導入し、予約から使用料の支払いまでオンラインで完結できるようになるなど利用者の利便性の向上を図りました。また、ヴィーブルや市民センター等の各設備等の保守点検業務委託を行ったほか、ヴィーブルのキュービクル改修工事を行いました。

③【図書館及びマンガミュージアムについて、指定管理者と連携し活性化を図ります。】については、「秋の本まつり」やマンガミュージアムの「ＹＯＵ-ＮｉＮ-ＭＡＮフェスタ」で、読書イベントや著名人を招いたマンガトークライブを開催し、施設周辺住民をはじめとする市内外の参加者が集い地域づくり活性化を図りました。

④【地区公民館活動の活性化に向けて、地域学校協働活動事業を活用するなど地域リーダー育成に取り組みます。】については、学校・家庭・地域連携事業の中で、小・中学校合同清掃活動や地区夏祭りの企画運営に、中学生が参加し地域活性化の一役を担うことで地域リーダー育成に取り組みました。

②施策の課題

●多文化共生社会の実現にむけて、より多くの外国人に参加してもらえるような魅力的な講座の開催が必要です。
●令和8年2月に導入したオンライン予約システムの更なる周知と課題点の改善が必要です。
●図書館及びマンガミュージアムについて、令和10年度以降の指定管理者制度も含めたあり方検討が必要です。
●社会教育施設全体の施設使用料金の見直しが必要です。
●総合センターヴィーブル、市民センターの窓口業務の委託について検討が必要です。
●社会教育施設全体の老朽化に伴い、計画的な維持管理や更新が必要です。

５　施策の令和７年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項（令和８年7月13日まとめ）

●社会情勢の変化や多文化共生など、多様化する市民ニーズを的確に捉え、既存事業の検討を行い、講座やイベントのさらなる質的向上と最適化を図ること。
●各施設の状況を把握し、公共施設等総合管理計画に基づいた計画的な維持補修・更新を実施し、施設の安全性確保と長寿命化、および良好な利用環境の維持に努めること。
●社会教育施設の利便性の向上および事務の効率化を図るため、施設運営について業務委託等の検討を進めること。
●社会教育施設全体の維持管理コスト増を考慮し、近隣自治体との比較や市民の利便性をバランスよく検討した上で、施設使用料の改定について具体的な検討を進めること。
●図書館およびマンガミュージアムについて、指定管理者と連携しながら、電子図書の充実や図書館のデジタル化を推進し、施設の魅力向上と地域活性化に資する事業展開を推進すること。

②総合政策審議会での指摘事項（令和8年8月31日のまとめ）

●地域の実情に即したコミュニティ運営を検討するとともに、既存の社会教育施設
について、計画的に維持管理すること。
●若年層の取り込みや新たな文化活動の導入により、幅広い世代が参加できる多様な学習機会を創出し、地域のリーダーとなる人材の育成に取り組むこと。

③議会の行政評価における指摘事項（令和8年9月1日）

●マンガミュージアムには国際的な翻訳漫画が収蔵されていることから、多文化交流や国際理解を促進する地域資源として、その活用の可能性を積極的に検討すること。
●社会教育施設については、老朽化対策を計画的に進めるとともに、施設運営の効率化や利用者サービスの向上を図るため、業務委託等の導入や施設使用料のあり方についても検討を進めること。
●オンライン予約システムの周知・改善を進めることで、誰もが利用しやすい社会教育施設の環境整備を推進すること。
●図書館とマンガミュージアムの潜在的な力を引き出し、ビジネスマッチングにつながるような活動を進めること。

６　次年度に向けた取り組み方針

○政策推進本部　令和９年度合志市経営方針（令和8年10月6日）

①施設利用料の適正料金を検証・整理するとともに、施設の利便性向上・事務の効率化に向けた運営方法の検討を行い、施設運営体制の最適化を図ります。
②公共施設等総合計画を基本とした維持補修・更新を実施し、社会教育施設の安全性確保と長寿命化、良好な利用環境を維持します。
③マンガミュージアムの特性を活かし、本市ゆかりの著名な漫画家の招聘など魅力的なイベントを企画し、市内外へ向けての情報発信に努めるとともに、本市「クリエイター塾」との連携も模索しながら県内におけるマンガ拠点を目指します。
④AIやSNSの活用講座やクリエイター塾との連携など、時代のニーズに合わせた新たな魅力ある講座の開設を検討し、「市民が生涯を通じて学び続けるまち」の実現に向けて多様な世代の参画と学びの機会の促進を図ります。